

「ダンスの創造的行為をめぐって」

2015/11/28【土】14時開演

京都芸術劇場 春秋座 舞台上

入場無料・要事前申込(定員/100名予定)
ポストパフォーマンストーク【川口隆夫・國吉和子(舞踊研究・評論)】

※13:55までに春秋座ロビーにお越しください。

※当日は春秋座ロビーにて「大野一雄アーカイブ展」を開催しております。
そちらもあわせてお楽しみ下さい。

故・大野一雄の映像をテキストに、振付けを解析した作品。
動きだけを完全コピーし、ダンサーとしての大野一雄を再現する試み。

振付/土方巽・大野一雄
作出演/川口隆夫
ドラマトウルク/飯名尚人
衣装/北村教子

川口隆夫
ソロダンスパフォーマンス

大野一雄について

パフォーマンス + 展示 + ラウンドテーブル

大野一雄アーカイブ展

協力: 大野一雄舞踏研究所

11/26【木】▶29【日】 11時~18時

入場無料・申込不要 京都芸術劇場 春秋座 ロビー

大野一雄の作品のポスター、創作の原稿、スケッチ等の展示。
稽古、リハーサル風景の映像をご覧いただけます。



大野一雄「手」石膏 渡辺晃二(写真 Lucia Baldini)



「ラ・アルヘンチーナ頌」(1977年ポスター)

「振付の可能性をめぐって」

11/29【日】 13時スタート

入場無料・要事前申込(定員/50名予定) 京都造形芸術大学 人間館 NA402教室

パネリスト

きたまり(ダンサー・コレオグラファー)・平原慎太郎(ダンサー・コレオグラファー)・相模友士郎(演出家)・星野太(東京大学IHS特任助教・哲学)

ファシリテーター

山田せつ子(ダンサー・コレオグラファー)

ダンスと演劇の境界も開かれ、様々な形での振付けが見いだされてきている。
果敢に実験を続ける若手コレオグラファー、演出家、研究者が4時間に渡って、問題を投げかけ合う。
参加される方がたとともに、話しを深めていきたい。



京都造形芸術大学

共同利用 共同研究

ダンス作品創造における、基本的な方法として「振付」という行為がある。

西洋、東洋を問わず、ダンスの創作の場で身体から身体へムーブメントを移す振付という作業はダンスの基本的スタイルとして長く行われてきた。しかし、昨今コンテンポラリーダンスの流れの中で、振付という行為への新たな視点が模索されてきている。ダンスと演劇が、境界を越えて作品創りをしている現実や、様々なジャンルのコラボレーション作品が当たり前となっている現在、言葉でのイメージの伝達、美術家による空間設定などが、振付という行為のあらたな可能性を生み出している。

今回、ダンサー／コレオグラファーである川口隆夫氏の作品『大野一雄について』を上演する。川口氏は、故大野一雄氏の残された映像、創作のプロセスでうまれた言葉を基としつつ、さらに同時代を共にした人々へのインタビューを重ね、大野一雄氏の舞踏へのアプローチを深めた。そして、独自に振付を掘り起こし、『大野一雄について』という作品の上演に至った。現在、世界各国でこの上演を続けている。通常振付は、コレオグラファーからダンサーに渡されるものであるが、本作品は、そうした人と人との関係を持たずして、映像から大野一雄の舞踏を身体に移すという方法で作られたものである。

ダンスにおいて「真似る」ということと、振付という行為は、どう違うのか。伝統の中で継承されてきた、「振付」という行為は、当たりまえのように、コンテンポラリーダンスの中でも受け継がれているが、そのことの意味、あるいは未来的な可能性と不可能性を、ラウンドテーブルではダンス以外の場で活動する方々の参加も招き、身体表現思想の問題として研究していく。

研究代表者 山田せつ子(ダンサー・コレオグラファー)

【パフォーマンス および ラウンドテーブルの申込み先】

〈電話・窓口〉 京都芸術劇場チケットセンター 電話 075-791-8240 (平日10~17時)
 〈WEB〉 <http://goo.gl/forms/Z8afJFuxsu>



京都芸術劇場 春秋座

京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学内

会場案内

■JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)

■京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から京都市バス204循環に乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)

■京阪電車出町柳駅から叡山電車に乗り換え、茶山駅下車(徒歩約10分)

※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はお断りします。
 ※所要時間はあくまで目安です。交通事情により大きく変動します。

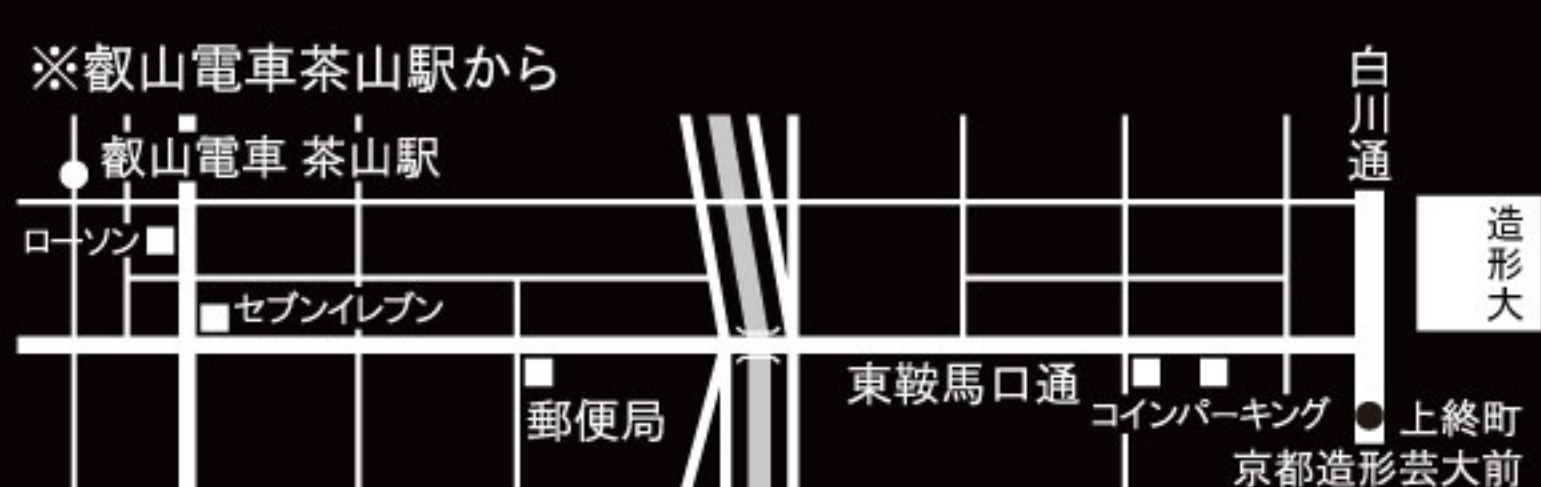


photo: 神山貞次郎

大野一雄 1906 2010
 おおの・かずお
 函館に生まれる。
 女学校で体育教員として教鞭をとるかたわら、石井漢江口隆哉に師事して、モダンダンスを学ぶ。兵役によって活動を中断、復員後1949年に第1回のリサイタルをもった。60年代暗黒舞踏の創始者土方巽との共同作業を行いながら独自の表現を模索。青年時代に出会ったスペイン舞踊の舞姫、ラ・アルヘンチーナをたたえる独舞踏「ラ・アルヘンチーナ頌」を1977年に発表し高い評価を受けた。加齢により歩行が困難となつてからも、手の動きで踊る新たな境地を開き表現活動を行った。

同時開催 京都芸術センター 「大野一雄映像展」

展示 11/27(金)▶12/1(火) 10時~20時

大野一雄出演の映像作品を展示するほか、期間中には舞踏のワークショップも開催いたします。

舞踏ワークショップ 講師:大野慶人
 11/28(土) 19時 参加料 1,000円

主催・会場 | 京都芸術センター
 お問い合わせ先 | 京都芸術センター 電話 075-213-1000
 〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2
<http://www.kac.or.jp/>
 ※詳細は京都芸術センターへお問い合わせください。